

1 夏から秋にかけての管理の注意点

ここでは、原木しいたけの生産を再開した生産者の方々のために、管理の注意点をお知らせします。

(1) 豪雨対策

露地栽培の場合、集中豪雨により伏せ込んでいたホダ木が流失する被害を受けることがあります。

特に道路沿いや谷間のホダ場では、水の通り道になりやすいので注意してください。

集中豪雨時にホダ場に井げた積みとヨロイ伏せの2種類の方法で伏せ込んでいた生産者が、井げた積みは流失し、ヨロイ伏せにした方が流失を免れた事例があります。

一般に、これから台風シーズンになりますので、暑いうち（次に示す原基形成促進が盛んになる前）に早めに対策をとってください。



井桁積み



ヨロイ伏せ

(2) 原基形成の促進

今秋や翌春に発生するしいたけは、平均気温約 20℃になる晩夏から初秋にかけてホダ木の内樹皮に原基（きのこのもとになる芽）ができて成長したものです。

原基形成を促進するためには、温度、光、水分が必要です。

なお、今年は雨が多く水分は十分にあるものと予想されますので、散水作業はあまり必要としませんが、原基形成が進むこの時期はホダ木に刺激を与えないことが重要です。ホダ木移動による刺激を与えると形成され始めた芽が流れることがありますので、この期間中はできるだけ刺激を与えないようにしてください。